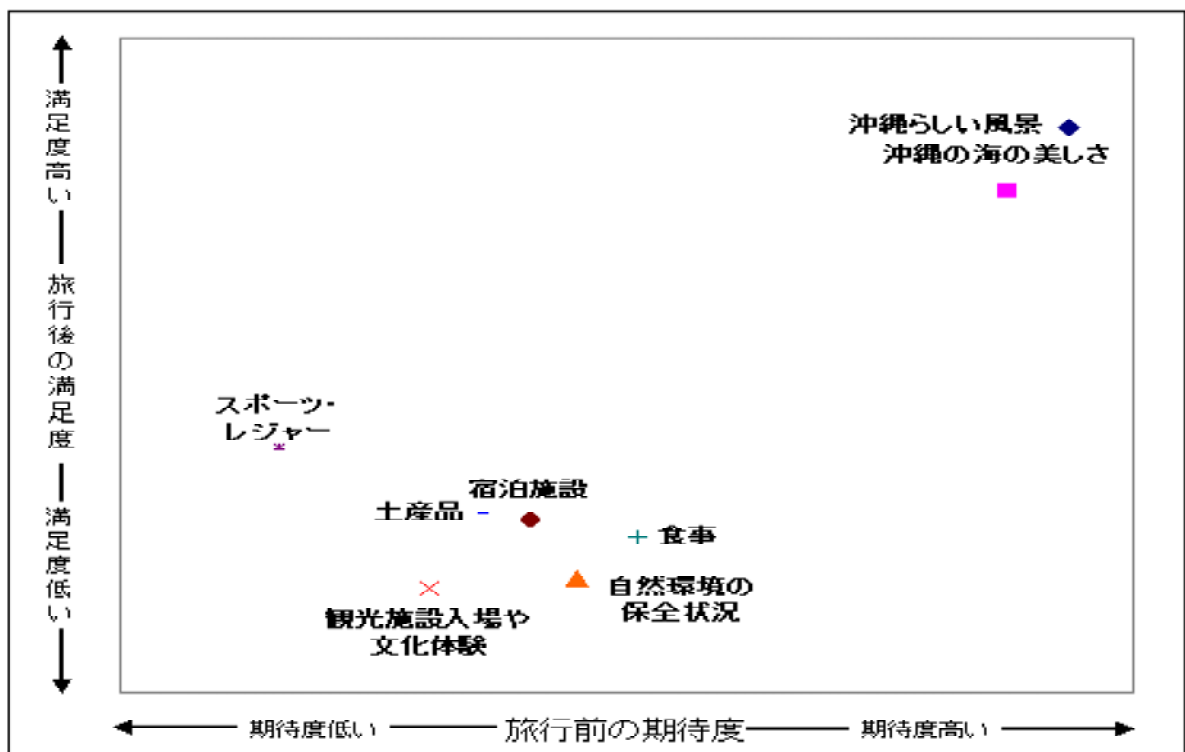


資料：平成18年度沖縄観光客満足度調査

ウ 期待度と満足度

「沖縄の海の美しさ」、「沖縄らしい風景」は、期待度、満足度ともに高いが、「食事」や「自然環境の保全状況」は、期待度と満足度のギャップが他に比べ大きくなっている。



資料：平成18年度沖縄観光客満足度調査

4 観光振興指標の実績

成果指標	単位	平成13年 (基準)	平成16年		平成19年	
			目標	実績	目標	実績・見込み
入域観光客数 (うち外国人観光客数)	万人	443 (20)	510 (23)	515 (13)	580 (25)	587 (17) 確定値
観光客一人当たり県内消費額	千円	76	94	70	80	72 見込み値
観光収入 (名目値)	億円	3,390	4,800	3,632	4,800	4,227 見込み値
平均滞在日数	日	3.66	3.73	3.72	4.10	3.67 見込み値
コンベンション開催 件数 (うち国際会議等)	件/ 年度	587 (32)	610 (40)	649 (35)	730 (45)	635 (15) 見込み値
コンベンション県外 ・海外参加者数 (うち国際会議等)	人	48,721 (9,313)	-	55,473 (13,274)	63,000 (11,000)	49,353 (3,676) 見込み値
スポーツキャンプ・ 合宿数 (参加者人数)	件/ 年度 (人)	196 (6,820)	220	192 (5,221)	220 (7,300)	279 (4,765) 平成18年
宿泊施設客室数 (収容人員)	室 (人)	23,781 (60,078) (平成12年)	26,500	28,303 (71,062)	31,200 (81,100)	32,320 (80,746) 平成18年
観光情報アクセス件 数(OCVB真南風プ ラス)	万件 /月	3.0	5.0	13.0	18.0	38.5 確定値
クルーズ船の寄港回 数(うち定期船)	回	85 (63)	90	84 (71)	90 (75)	61 (38) 確定値
リゾートウエディン グ実施組数	組	1,100	-	3,500	7,500	7,500 見込み値

(1) 入域観光客数（外国人観光客数）

平成19年の入域観光客数は587万人となり、計画目標の580万人を上回り、過去最高の記録となった。

そのうち、海外から国内を経由せず直接沖縄入りした外国人観光客数は17万人で、目標の25万人を下回ったものの、平成18年の落ち込みから大きく回復した。

国内観光客については、沖縄への関心や人気が続いていることを背景に、新規航空路線の開設や増便による航空輸送能力の増加、宿泊施設の増加・質の向上、魅力のある観光施設の設置、官民あがての誘客キャンペーンの展開などにより計画目標を達成した。

外国人観光客については、ビジットジャパンキャンペーンと連携した、台湾・韓国・中国・香港を重点地域とする誘客・宣伝活動を積極的に展開した結果、定期クルーズ船の復活や香港・台湾、韓国等からのチャーター便の増加などにより、概ね好調に推移している。

国別では、台湾については、定期クルーズ船の運航再開や航空会社とタイアップした誘客キャンペーンの展開により、平成18年の落ち込みから順調に回復している。韓国については、平成18年に初めて入域観光客数1万人を突破し、冬場の誘客に強みを見せるなど、さらなる伸びが期待される。香港については、戦略的な誘致活動の結果、多数のチャーター便が就航するなど、定期便の復活に向けて大きく前進した。中国については、トップセールスの展開などにより、着実に成果を上げつつある。

(2) 観光客一人当たり県内消費額

平成18年の観光客一人当たり県内消費額は7万3千円となっている。回復基調にはあるものの、依然、伸び悩んでいる状況にあり、また、平成19年（1月～9月）については、速報値ベースで前年同期比でやや下回る水準で推移している。計画目標の8万円を下回る見込みである。

沖縄型特定免税店空港外店舗の開店などによるリゾートショッピングの進展、また、食への関心の高まりにより、土産費や飲食費は増加傾向にあるものの、宿泊費については、宿泊特化型宿泊施設の増加、滞在日数の伸び悩みなどにより、減少傾向にある。全国的な旅行商品の低価格化が定着していること、個人消費の低迷、観光地間の競争の激化等が、観光客一人当たり県内消費額が回復基調にはあるものの、伸び悩んでいる状況の要因であると思われる。

なお、県においては、より、観光客一人当たり県内消費額の推計精度を上げる